



「外為短期投資家動向調査」結果

<第23回調査>

2011年4月28日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の国政選挙など、市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2011年4月19日(火)13:00~2011年4月26日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は、874件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

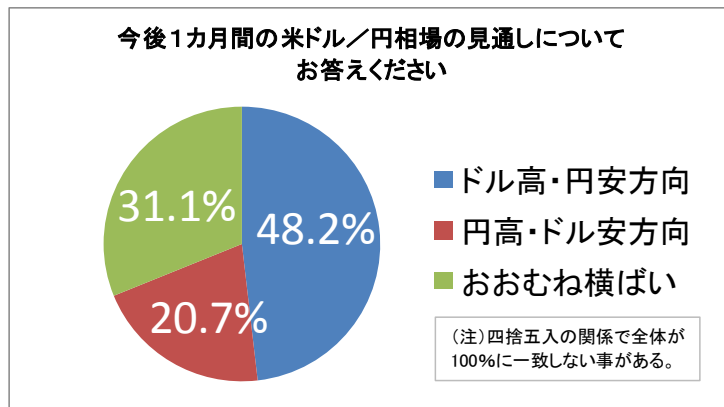
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第23回調査結果略報：ドル円DI、再びプラスへ】

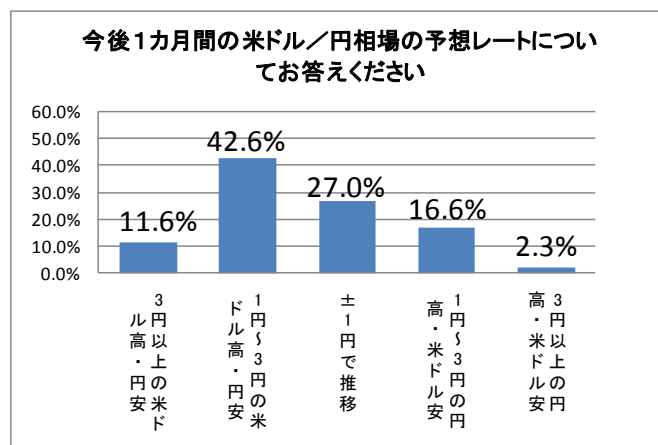
問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が48.2%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が20.7%となった。この結果、「ドル円予想DI」は+27.5%ポイントとなり、前回調査の-5.2%ポイントからドル高円安方向に再転換した。調査期間中のドル円相場は83円前後から81円台半ばへじりじりと下落する格好となったが、この値動きに反してFX投資家の相場観はドル高・円安方向に傾いた。もっとも、市場全体が、3月のG7による協調介入や東日本大震災の被害による輸出の減少、日米の金融政策格差などを背景に円売りムードに傾きつつあっただけに、相場の値動きのほうが大方向の予想に反して円高・ドル安方向に振れたというべきなのかもしれない。※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

「今後1ヶ月間のドル円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が42.6%と最も多く、次いで「±1円で推移」が27.0%、「1円～3円の円高・米ドル安」が16.6%、「3円以上の米ドル高・円安」が11.6%、「3円以上の円高・米ドル安」が2.3%の順になった。ヒストグラムの形状はドル高・円安方向に偏っており、問1でドル高・円安予想が優勢となった結果と整合的と言える。ただ、「1円～3円の米ドル高・円安」と答えた割合が4割以上を占め、「3円以上の米ドル高・円安」と答えた割合が1割強にとどまった結果から、今後1カ月でドル円が年初来高値(4/6の85.53円)を更新して大幅に上昇すると予想するFX投資家は少ないようだ。

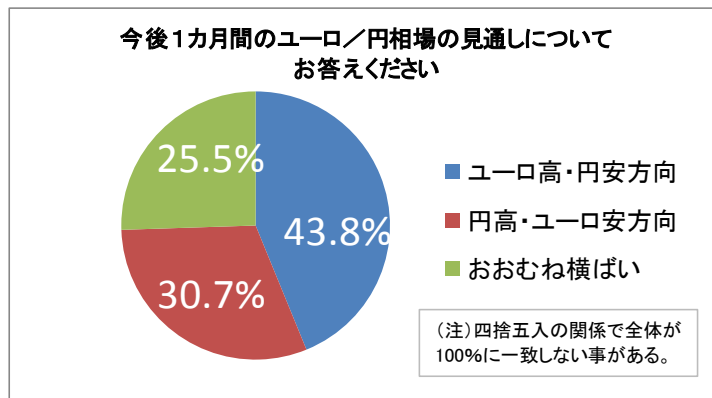


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

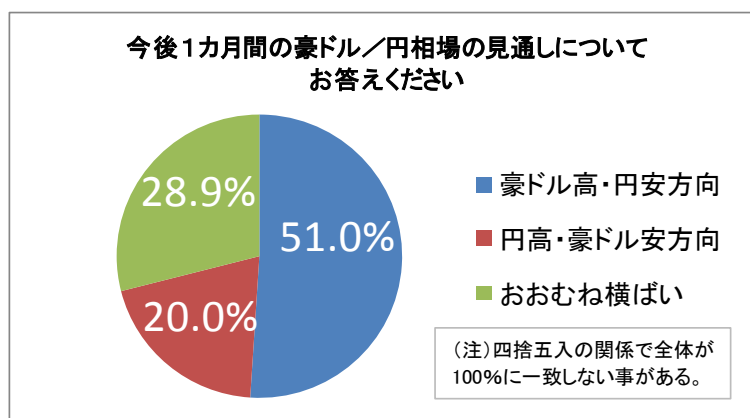
問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が43.8%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が30.7%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は+13.1%ポイントとなり、前回調査の-5.1%ポイントに示されたユーロ安予想からユーロ高予想に転換した。調査期間中のユーロ円相場は、117円台前半から120円台前半で堅調に推移した。ギリシャの債務再編などユーロ圏の債務問題は懸念材料としてくすぶるものの、欧州中銀(ECB)による追加利上げ観測や世界的な株高・資源高に支えられてユーロ強気派が息を吹き返した格好だ。※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が51.0%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が20.0%となった。この結果「豪ドル円予想DI」は31.0%ポイントとなり、前回調査の-2.7%ポイントから一転して大幅なプラスとなった。調査期間中の豪ドル円は86円台前半から88円台半ばで比較的底堅く推移したが、豪ドルは対ドルでは変動相場移行後の最高値を更新して上昇するなど、高金利通貨である豪ドル人気は根強いものがある。今回の調査でもドル円やユーロ円と比べ豪ドル強気派が最も多く、東日本大震災の影響などから前回調査で一時落ち込んだ豪ドル人気は急速に回復したようだ。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

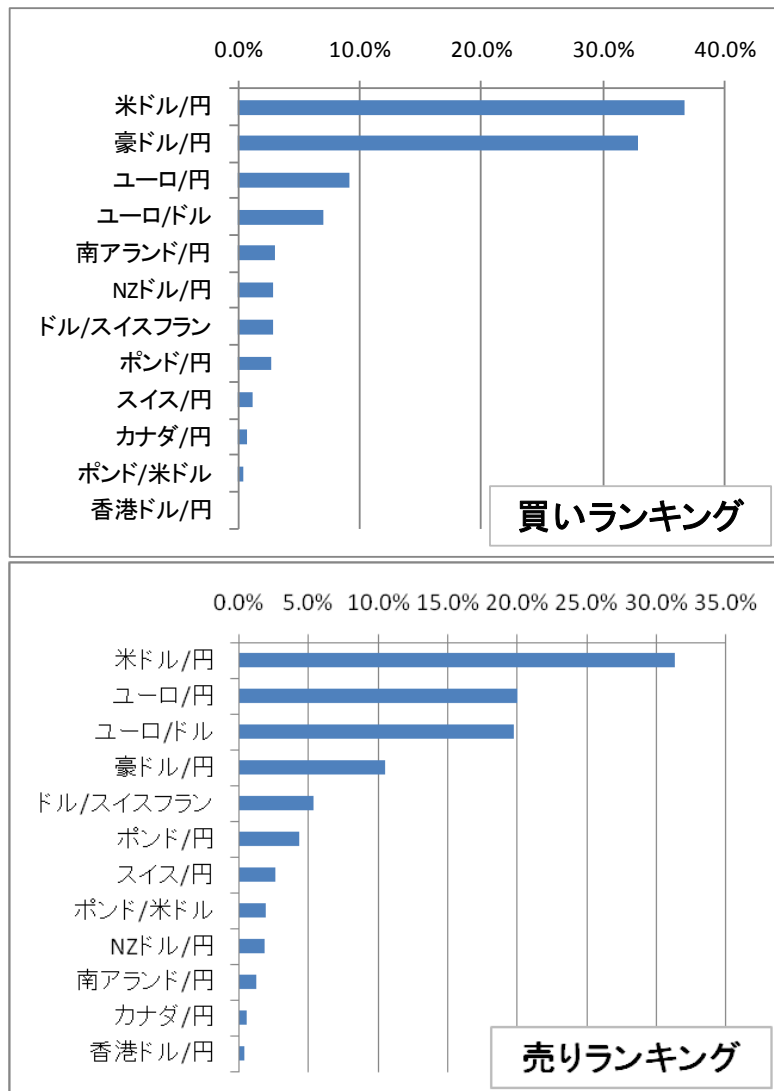


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位ドル円(36.7%)、2位豪ドル円(32.8%)、3位ユーロ円(9.2%)、4位ユーロドル(7.1%)、5位は南アランド円(3.1%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ドル円(31.4%)、2位ユーロ円(20.0%)、3位ユーロドル(19.8%)、4位豪ドル円(10.5%)、5位ドルスイス(5.4%)となった。「買い」で注目の通貨ペアでも「売り」で注目の通貨ペアでもドル円が1位となっており、FX投資家のドル円に対する関心の高さを改めて裏付ける結果となった。また、「売り」で注目の通貨ペア第5位に回答割合はやや低いもののドルスイスが入った点は興味深い。調査期間中のドルスイスは、ほぼ連日で史上最安値を更新して一方的に下落しており、各種報道や市況解説でも度々取り上げられた事が、一部のFX投資家の売り意欲を刺激したものと考えられる。

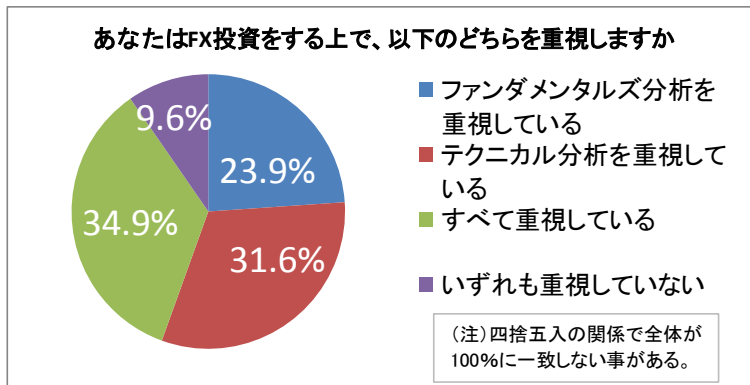


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

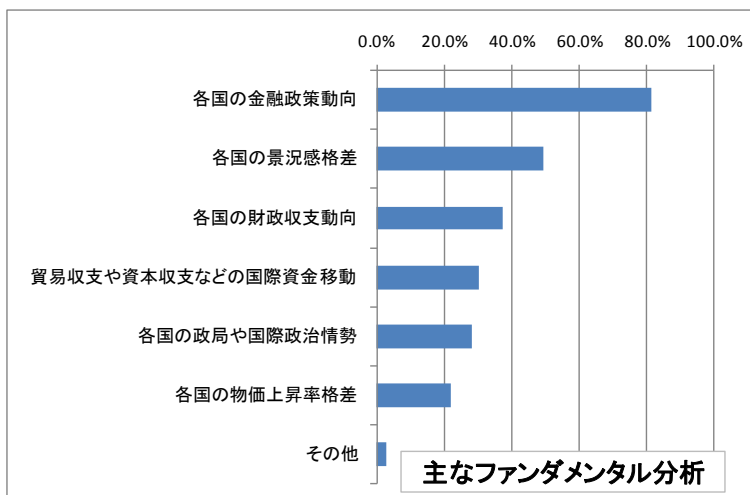
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が23.9%であったのに対し、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が31.6%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が34.9%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は9.6%となった。前回調査では28.3%であったファンダメンタルズ重視派がやや減少した一方で、前回23.8%であったテクニカル重視派が増加している。東日本大震災の影響などから、ファンダメンタルズに不透明要素が多い中、テクニカル分析に主眼を置くFX投資家が増加している可能性を感じさせる結果となった。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(81.3%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(49.5%)」、「各国の財政収支動向(37.3%)」、「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(30.1%)」、「各国の政局や国際政治情勢(28.3%)」の順に続いた。今回も引き続き「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して8割以上の回答割合を集めている。4月7日には欧州中銀(ECB)が2008年7月以来の利上げに踏み切りユーロが上昇した事もあって、FX投資家の間では、金融政策動向への注目度が一段と増しているようだ。

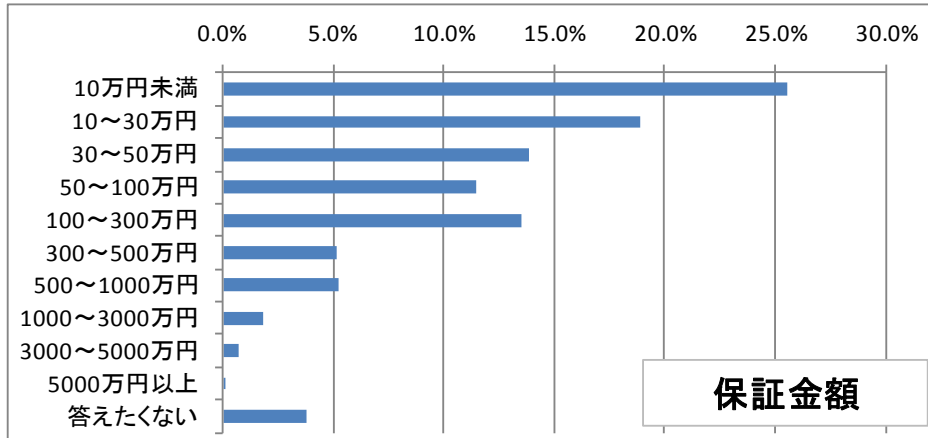


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

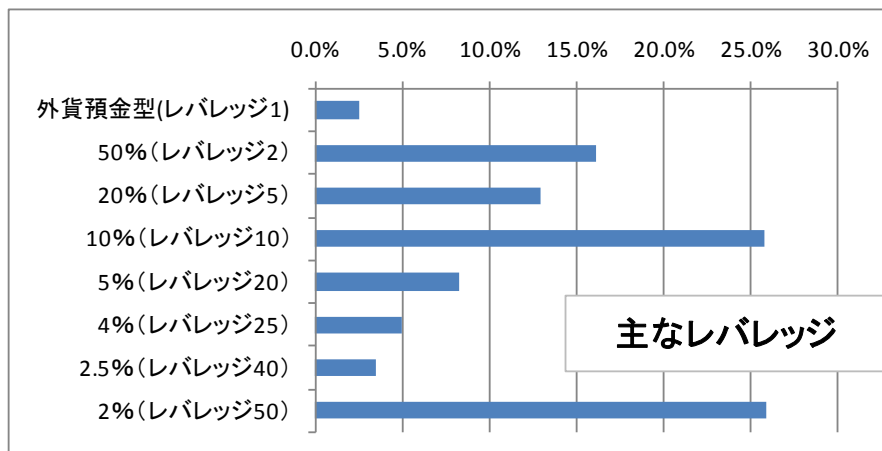
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が25.5%と最も多かった。以下、「10～30万円(18.9%)」、「30～50万円(13.8%)」、「100～300万円(13.5%)」、「50～100万円(11.4%)」となった。100万円以下の保証金で取引を行うFX投資家がほぼ7割を占める(合算割合)一方で、1000万円以上と答えた合算割合は2.6%にとどまるなど、比較的小口の投資家が多数を占める傾向に調査開始以来大きな変化は見られない。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「2%(レバレッジ50)」がと答えた割合が26.0%と最も多く、以下「10%(レバレッジ10)」が25.9%、「50%(レバレッジ2)」が16.1%、「20%(レバレッジ5)」が12.9%と続いた。前回調査同様「50%(レバレッジ2)」と「2%(レバレッジ50)」で過半数を占める結果となった、昨年8月のいわゆる「レバレッジ規制」後のFX投資家の取引保証金率を選択する姿勢はほぼ確立されたと言ってよいだろう。ただ、今年8月には「4%(レバレッジ25)」が上限となる事が決まっており、その後の推移が注目される。

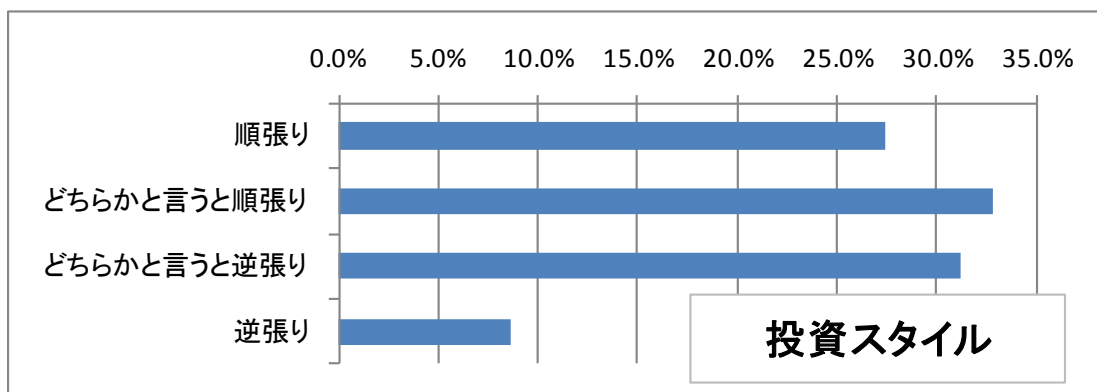


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

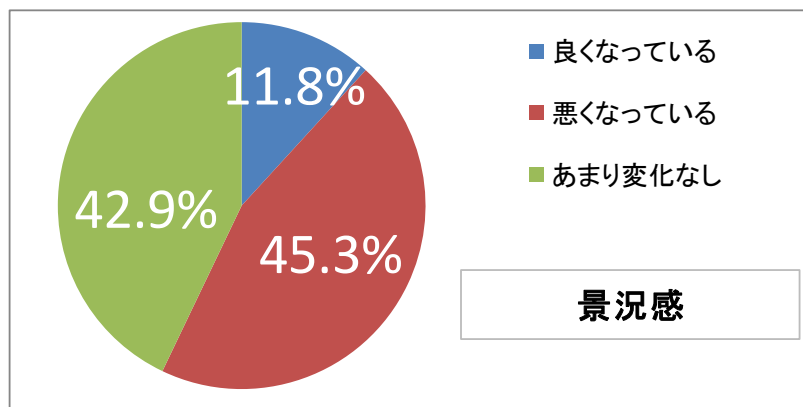
問10: あなたの投資スタイルは、いわゆる「順張り」「逆張り」のどちらでしょうか(ひとつだけ)

今月の特別質問項目としてあなたの投資スタイルは、いわゆる「順張り」「逆張り」のどちらでしょうか(ひとつだけ)と尋ねたところ、「どちらかという順張り」が32.8%と最も多く、「どちらかという逆張り(31.2%)」、「順張り(27.4%)」と続き、「逆張り」は8.6%にとどまった。FX個人投資家には、いわゆる「逆張り派」が多いとの認識が一般的だが、今回の調査では、「逆張り派」を自認するFX投資家はどちらかと言えば少数である事が示された。調査期間中の6営業日すべてにおいてユーロドルが陽線(終値が始値を上回る)を記録するなど、最近の為替相場では一方的な値動きが目立っており、こうした値動きに着目したうえで、比較的短期間での「順張り」トレードを志向するFX投資家が増加しているのかもしれない。



問11: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

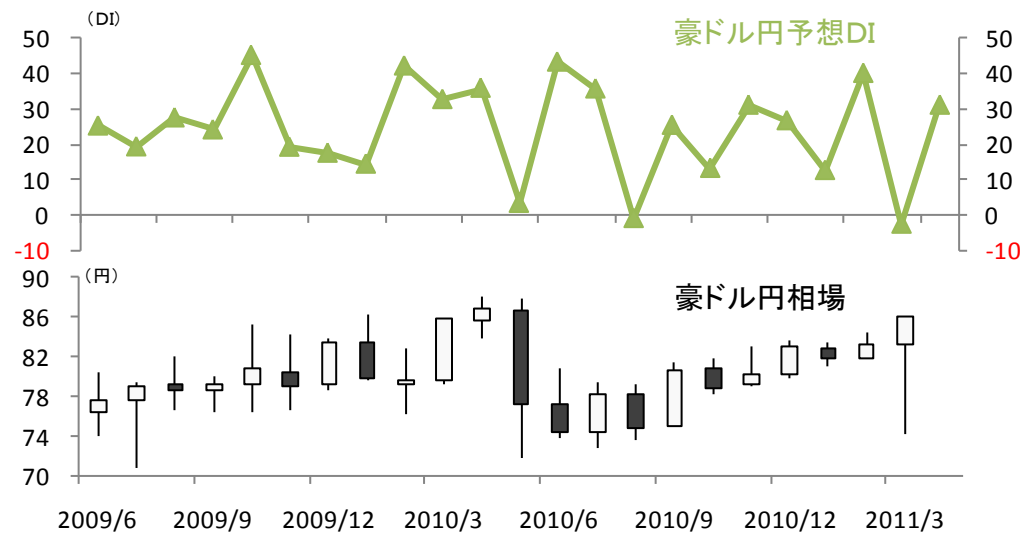
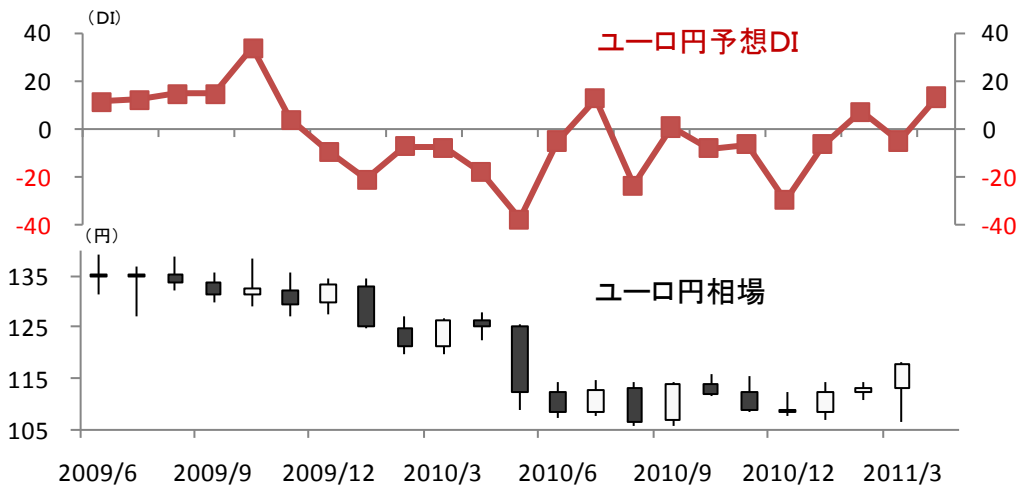
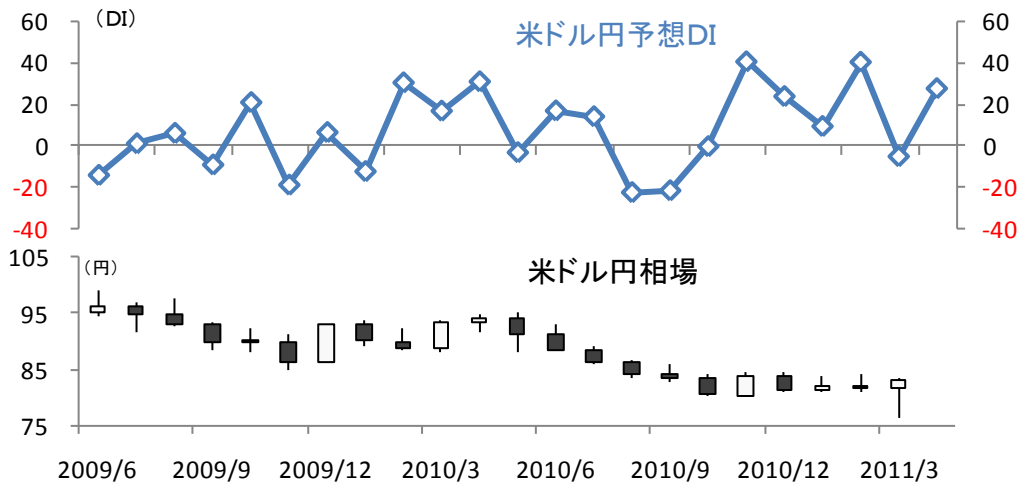
今月のもう一つの特別質問項目としてあなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)と尋ねたところ、「悪くなっている」が45.3%と最も多く、「あまり変化なし(42.9%)」、「良くなっている(11.8%)」と続いた。3カ月前の第20回調査で同じ質問をした際は、「悪くなっている」が25.7%、「良くなっている」が16.1%であった。この3カ月間でFX投資家の景況感は大幅に悪化しており、東日本大震災の発生が心理的圧迫要因となっているものと推測される。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第23回目となりました。前月との対比での時系列比較は徐々に可能になり始めていますが、開始後1年半以上が経過し、前年同期との比較も徐々に可能になってきましたが、まだ十分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0

(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com